

## 歴史は未来の羅針盤



『近江日野の歴史』第五巻「文化財編」を刊行しました。第一章／美の香り、第二章／匠の文化、第三章／住の演出、第四章／地に根ざす、の四章からなる内容の一部をご紹介します。各公民館や教育委員会において一冊四、〇〇〇円（税込み）で販売しています。ぜひお買い求めください。

第五巻「文化財編」の第一章第

二節は「墨に託された歴史 典籍」と古文書」と題して、日野町内の

神社・寺院などに残る、大般若經・

一切經などの仏典、中世を中心と

した古文書を取り上げています。

「文化財編」では日野ならではの史料を中心に、日野の歴史を分かりやすく解説しています。ここでは、その中でも代表的な典籍・古文書を紹介します。

## 大般若經と一切經

大般若經とは、六〇〇巻というまとまりをもつ仏典の名称で、古くから様々な法会の場で転読されきました。日野町内では西明寺（西明寺）や安樂寺（下駒月）、大屋神社（杉）などに中世の大般若經が残されており、江戸時代のものとしては大字大窪の岡本町に伝來したものが知られています。大般若經は繰り返し転読に用いられることで破損する事も多く、そ



▲正明寺の一切經

の度ごとに補修や他所からの購入が行われました。こうした経過は、

各巻の末尾に記された「識語」と

いう写經や補修の際の覚書により

ることができます。

また、一切經はすべての仏典の

総称をいい、正明寺（松尾）の鐵

眼版一切經（写真）は県指定の文

化財となっています。鐵眼版は、

黄檗宗の僧侶鉄眼によって整備さ

れた版本で、正明寺のものは「初

刷禁裏献上本」といい、延宝六

（一六七八）年に初めて摺り写さ

れ、後水尾上皇に献上された後に同寺に下賜されたことの分かるた

いへん貴重なものです。

## 古文書の語る日野の歴史

大般若經とは、六〇〇巻というまとまりをもつ仏典の名称で、古くから様々な法会の場で転読されました。日野町内では西明寺（西明寺）や安樂寺（下駒月）、大屋神社（杉）などに中世の大般若經が残されており、江戸時代のものとしては大字大窪の岡本町に伝來したものが知られています。大般若經は繰り返し転読に用いられることで破損する事も多く、そこで破損することも多くのことがありました。大般若經は転写に用いられることで、古文書を紹介します。

ここで、平成十（一九九八）年に二〇〇点余りが県指定文化財となつた興敬寺文書を例にその一端を見てみましょう。興敬寺には、

日野の中心的な真宗寺院であることを反映して、寺院の

由来や縁起を示す文書

を始め、本山からの伝

達事項や戦

国時代の同

寺門徒の分

布など中世

の日野の状

況を示す文

書が多く伝

えられています。

ます。本願寺の命令を伝達した文

書の中には、織田信長との対立が

続く情勢を反映して縦約八センチ、

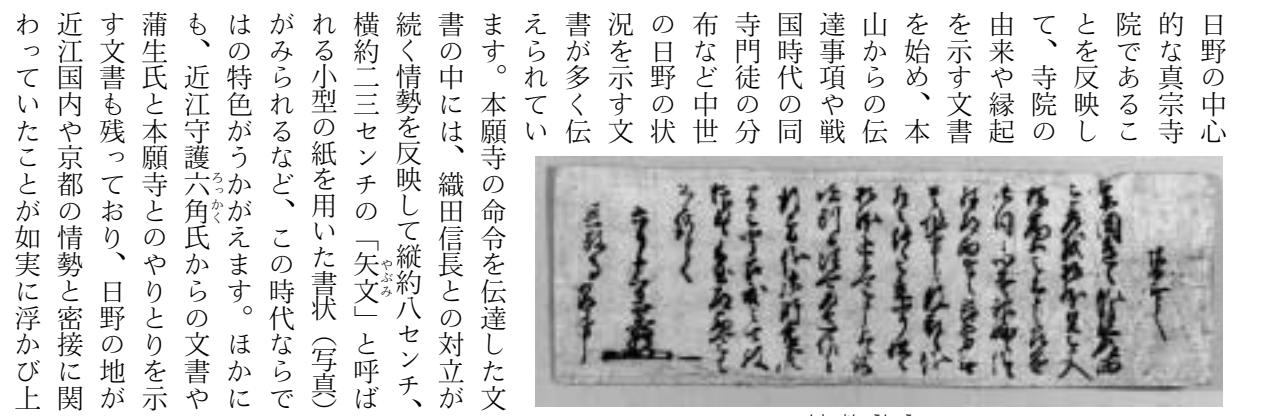
横約二三センチの「矢文」と呼ば

れる小型の紙を用いた書状（写真）

がみられるなど、この時代ならではの特色がうかがえます。ほかに

も、近江守護六角氏からの文書や

蒲生氏と本願寺とのやりとりを示



▲「矢文」の一つ下間正秀書状（興敬寺文書）